

優秀賞

水をつかう一人として

行田市立長野中学校 二年 深井 千愛

水は、私たちが生活する上で、必ず必要な存在です。

私達の体の六十パーセントが水分でできており、食べなくても水さえ飲んでいれば、二、三週間は生きていられるそうです。

生活でも、水は欠かせません。お風呂、トイレ、洗たくなどで一日でもたくさんの水を使います。

夏休みに祖母の家へ行きました。祖母の家の近くには大きな川があります。暑かったのでその川へ遊びに行きました。その時祖母が言いました。

「この川も昔に比べたらずいぶん汚くなったねー。おばあちゃんがまだ小さかったころはホタルとかの虫もたくさんいたんだよ。」

この言葉を聞いたとき、「きれいな水にしかないホタルもいるくらいこの川はきれいだったんだー」と思いました。

どうして、ホタルがいなくなるほど川が汚れてしまったのだろうか。私は考えてみました。考えていた時、小学校でやった授業を思い出しました。昔も今も、人間が生活する上で出した、汚い水をそのまま流してしまつて川や海を汚してしまうという内容です。水は生活する上でかかせないものであるのです、使わないという選択肢はないと思います。なので、自分のできる限り、水を汚したまま流さない工夫を心がけていけば、川などが汚れるのを防ぐことができると思います。そこで、私は、水を汚さないようにするための工夫を二つ考えてみました。

一つ目は、油などがこびりついた皿などは、全てを水で落とすのではなく、いろいろな紙や布で一度ふきとってから洗うことです。そうすることで川などに流れる油の量を減らすことができます。

二つ目は、洗剤などの石けんを使いすぎないようにすることです。洗剤な

どを使うと、汚れはよく落とせるかもしれませんが、川などが汚れてしまいます。そのために、石けんの量をできる限り少量を使うことを意識していけば、川を汚すのを防ぐことができると思います。

私は、水のむだづかいも問題かなと思います。私の家でもよくあります。じゃ口が少しだけ開いていて、水がポタポタと垂れていたり、こんなに大量の水をいらぬのにと思うのに、たくさん出してしまつたり。水は無限にあるものではありません。なので、今むだ使いしていると、将来、水が足りなくて困ってしまうこともあるかもしれません。そのために、じゃ口をよく閉めたかしっかり確認して、水は必要な量だけ出すということを家族みんなですべて、水のむだ使いを防ぎたいと思います。

日本では「水と空気はタダ」と昔から思われがちですが、外国では、水を求め遠くまでくみに行つたり、安全な水を使うためにわざわざお金をはらつたりしている国もあるそうです。

地球は、水の惑星とも呼ばれますが、そのほとんどが海水で、淡水は、一パーセントにも満たないそうです。

水は限りある資源といわれる理由を改めて知ることができました。

私は、水を汚したり、むだに使っていた人間の一人なので、これを機に、水への考え方を見直して、水を大切に使うていきたいと強く心にきめました。私一人の力では、小さくてあまり関係がないかもしれないませんが、また川にホタルがもどってきてくれるようなキレイな川になるように、小さな一歩を踏み出します。